

令和 8 年 4 月 / 日

菊池市議会議長
水上 隆光 様

議員名 二, 文伸元

令和 7 年度政務活動費収支報告書

菊池市議会政務活動費の交付に関する条例第6条の規定により、次のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入
政務活動費 240,000 円

2 支出

(単位 円)

項目	金額	備考
会議研修費		
調査研究費		
資料作成費		
資料購入費	37,200 円	農業新聞代として
広報費	96,741 円	DM 作業代として
広聴費		
人件費		
事務所費		
要請・陳情活動費		
合計	133,941 円	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 残額 106,059 円 (支出が収入を上回る場合は0を記入)



領収証

ニノ文伸元様

No. _____

金額

¥96,741-

但 DM作業代々々

2026年2月20日 上記正に領収いたしました

内訳

税抜金額

消費税額等(%)



〒116-0011 東京都荒川区西尾久2-22-4
有限会社 エムケイプランニング
代表取締役 神谷光明

コクヨ ウケ-95

信 通 元 伸

菊池市議会だより No.4

是は是、非は非で考える

二ノ文 しんげん



みなさんこんにちは。

是は是、非は非で考える二ノ文伸元です。

無投票で終わった前回の選挙から早くも4年が過ぎ、次の改選を迎えようとしています。

この4年間、国の政治状況は大きく揺れ動きました。

自民党議員の裏金問題を契機として公明党が連立を解消し、立憲民主党と新たに「中道改革連合」を結成。

また、参政党やれいわ新選組といった新しい政治勢力の台頭もあり、国政は複雑で先行きの見えにくい状況となっています。

こうした中、高市総理は「私でいいのか？」を掲げて衆議院を解散し、国民に信を問われました。

この広報がお手元に届くころには、すでに選挙結果が明らかになっていくことでしょう。

今後の政治の動きが、私たちの暮らしにどのような影響をもたらすのか、引き続き注視してまいります。

二ノ文しんげん プロフィール

- ◆昭和34年7月9日生まれ（66歳）
- ◆昭和47年 菊池市立隈府小学校卒業
- ◆昭和50年 菊池市立菊池北中学校卒業
- ◆昭和53年 私立鎮西高等学校体育課を卒業
- ◆平成13年3月 菊池市議会議員初当選
- ◆平成18年5月 菊池市議会議員2期目当選
- ◆平成22年3月 菊池市議会議員3期目当選
- ◆平成25年4月 菊池市長選挙（落選）
- ◆平成30年5月 菊池市議会議員4期目当選
- ◆令和4年5月 菊池市議会議員5期目当選

<主な役職>

- 菊池市水泳協会副会長
- 菊池市スポーツ推進委員
- 菊池市社交組合相談役
- 菊池市観光協会会員
- 菊池市商工会会員

<趣味>

- 水泳・ゴルフ・ジョギング

<政治信念>

- 人づくりは郷づくり

連絡先

〒861-1331 熊本県菊池市隈府 1058-2

TEL：0968-24-4758 発行者／菊池市議会議員 二ノ文 伸元

菊池市の祭りの現状について

二ノ文：菊池市では、菊池白龍まつり、きくち秋まつり、菊人形・菊まつり、菊池さくらまつり、菊池一族まつり、旭志ホテルフェスタ、しすい孔子公園夏まつり、七城コスモスふるさとまつりと、季節や地域の特性を生かした祭りがありますが、今回は、菊池白龍まつりときくち秋まつりに絞って質問したいと思います。

今年の白龍まつりの効果と課題及び反省点は何か。その対応策もお示しくください。

経済部長：菊池白龍まつりにつきましては、過去最大の約5万人の来場がっております。

課題につきましては、これまで警察から指摘がっております花火の打ち上げ場所の見直しや、交通規制の範囲及び時間、露店出店者の管理、近年の物価高騰及び人手不足、ごみ対策といった様々な課題があると認識しております。

二ノ文：菊池白龍まつりで活躍された白龍会の現状ですが、祭りも含め年間予算は約150万円前後と伺っております。

以前はメンバーが事業主や、その後継ぎで、比較的時間に余裕があるメンバーが多かったものの、現在は多くが会社員や公務員といった雇われの身のため、行動時間の制限や、役員候補不足など、人員に関する課題も出てきておるようです。

今年の白龍の担ぎ手は、一般成人130名、若龍の中高生70名、子白龍4年生以上100名、白龍会のメンバー50名、そして、総代経験者十数名の合計約360名で人数確保に大変なご苦労があったとのことでした。

担ぎ手の参加の際は、はっぴなどのクリーニング代も含めて3,000円の参加費を徴収されていますが、中には白龍会メンバー自身が参加費を払い、参加をお願いしてもらったようにも聞き受けました。

これまで長年にわたって継続されてきたきくち秋まつりが、今後も若い世代に受け継がれ、末永く続けられることと思います。しかし、人的課題や環境的現状など総合的に見て、継続していくことの厳しさが少しずつ増しているように思います。行政として予算獲得も含め、何か有効な手だてはありませんか？

経済部長：補助金の額につきましては、菊池白龍まつりに490万円、きくち秋まつりに100万

円の支出予定となっております。

なお、人員確保、予算についての問題につきましては、祭実行委員会の企画委員会及び実行委員会内で協議、検討をしたいと思っております

二ノ文：地域の過疎化、少子化、商店街衰退に合わせて、参加者の激減と見学者の減少が重なり、このような状態が今後も予想されるため、きくち秋まつりを菊池白龍まつりとの一本化などの検討も必要かと考えます。

また、その際、予算の一元化が図られます。さらに、菊池白龍まつりときくち秋まつりの一本化の場合の時期ですが、私は菊池白龍まつりにきくち秋まつりを一本化した形、つまり、8月の開催日です。しかし、白龍会の方の案は、逆に、きくち秋まつりに菊池白龍まつりを一本化するという案でした。

記録的な暑さで今年も観測史上最も暑い夏と言われていました。あの暑さの中、350キロ以上もの龍を抱えて練り歩くのは限界に近かったとのことで、熱中症の危険もあったようです。私の案とは逆に、きくち秋まつりに菊池白龍まつりを一本化する案でした。

つまり、10月開催ということですので、そのことについてのご見解をお示しくください。

経済部長：菊池白龍まつりときくち秋まつりを統合すること、併せて、実施時期につきましては、ご提案があれば、企画委員会の中で協議、検討を行いまして、地元区長をはじめ関係団体で構成しております祭実行委員会において協議することになると考えております。

二ノ文：大事なことは、祭実行委員会の中で、参加されるメンバーの意見をしっかり集約されて、そして、その意見が出やすいような雰囲気づくりを祭実行委員会の委員長をされている江頭市長にお願いをするところです。



※白龍まつりは現在、私の提案のとおり10月開催となりました。

菊池温泉街の現状について

二ノ文：新型コロナウイルス感染症による発症者の増加に、マスク生活は当たり前になり、人との接触に注意を払い、外出を避け、その上、度重なる制限により、飲食・会食等も自粛になり、旅館、飲食業界が休業も余儀なくされたことは、皆さんご存じのとおりでございます。

国は、当初、こうした制限に給付金、助成金制度で対応しましたが、この状態が3年間も続き、その当時の給付や助成金では耐え難い状況になっています。

今でも地域行事の出席、会食の自粛、様々な業界団体等の歓送迎会、忘年会、新年会自粛と、飲食等の機会が奪われており、悲痛な思いでおられる方々が多いと思います。

当然菊池の旅館、飲食業が数多く混在する菊池温泉街にあっても、そのダメージもかなりのものと予想されます。

現在の温泉街の状況をどのように認識されておられるのか、お尋ねをいたします。

経済部長：令和2年からのコロナ禍によって、菊池市内の飲食店を利用するお客様は、国の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置、飲食店に対する営業時間短縮要請等により外出を控える動きから減少しておりまして、その状況は多少の回復はあるものの、いまだ続いていると認識しております。

二ノ文：今後、市としてどのような対策、支援を考慮されるのか、おありでしたらお示しください。また、そのことにより、どのような展望を描いておられるのか、お示しください。

経済部長：商工関係では、「プレミアム付き商品券事業」など、13事業で約11億1,800万円、観光関係では、「宿泊施設助成事業」など、3事業で約5億5,700万円の対策を行っており、どれも一定の効果は上がっていると考えます。

また、令和5年度当初予算に改めて温泉街の活性化を図るために、宿泊事業者や観光関係事業者、市民の方々などが一緒になって観光によるまちづくりを考えるセミナーやワークショップを開催して、菊池温泉街の魅力創出に取り組んでまいりたいと考えております。

二ノ文：今年度の予算書を見ましたら、菊池温泉街魅力創出事業対策ということが載っており

ましたが、この対策について、どのような制度になっているのかお尋ねします。

経済部長：市民の皆様と一緒に、また、温泉街の旅館の皆様方と、観光協会と、皆様方と一緒に温泉街の魅力創出を考えるという事業でございます。

二ノ文：今後、新型コロナウイルス感染症の取組、扱いも変更されますが、ぜひこの議会ももちろんでありますけども、行政の皆さんが対策をしっかりと取りながら、温泉街とは言いません。市の飲食店に足を運び、状況を把握していただくとともに、市の活性化に一役買っていただければと思います。

ここで、市長のご見解をお聞かせください。

市長：温泉街のみならず、やはり観光全体の活性化、盛り上げを図らないと、これは長続きしませんので、私どもは、今回、非常に大きな決断をいたしまして、観光協会に対して、私どもの人件費の負担で、2名の中核的な経験者を、専門家を送り込もうということで、1人は既に私どものほうから派遣済みでございますし、もう1人、旅行者のデータ分析と、あるいはPR等に精通した方をもう1人、今、採用中でございます。

旅館街あるいは温泉街だけでやるのではなくて、市民目線も入れて、かつ市民の人がどうやって温かくお迎えするかということも、観光にとっての一つの重要なファクターでありますので、市民の方も入れて、それから関係の方々に入っていて、温泉に関する、あるいは温泉を使った健康に関する専門家を招いて、私どものほうでそういうセミナー、ワークショップをつくらせていただくと考えております。

素材はもう既に足元にあるわけでありますので、それに向かって、どうやって力を合わせていくか、そのことにかかっているというふうに考えております。



議員定数削減は、公約の一丁目一番地

二ノ文しんげんは、これまで一貫して市議会議員の定数を2名削減し、18名とするべきだと訴えてきました。令和3年には、定数を2名減らすことで4年間で約5,000万円の歳出削減が可能であるとして削減案を提出しましたが、否決されました。

その後、令和4年の市議会議員選挙では、合併以来初めての無投票となりました。

この結果を受け、議員定数削減は避けて通れない課題であると改めて確信しましたし、市民の皆さまからも定数削減を求める声が多く寄せられました。

こうした状況を踏まえ、志を同じくする議員が令和7年に再び「2名削減案」を提出され、私も賛成しました。しかし、この案は3度提出されながら、いずれも否決されました。

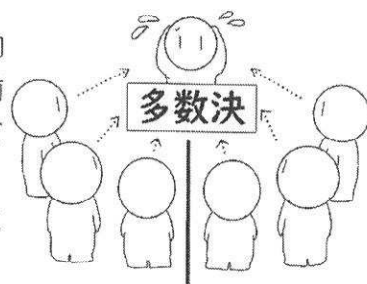
ところが、選挙直前の令和7年第4回定例会で、突如として「1名削減案」が提出されました。ただし、私は以前から「議員定数は偶数であるべきだ」

と主張してきました。

奇数の場合、議長を除いて採決すると可否同数になるからです。このことは、議長に権限が集中することとなり、議会運営として適切ではありません。

実際、今回の「定数を19とする案」の採決では、賛成9・反対9の可否同数となり（現在1名欠員のため）、議長採決によって可決されました。まさに私が懸念していた「奇数定数の弊害」が、早速あらわれた形です。

しかしながら、令和4年の無投票選挙以前から定数削減を訴えてきたことが、今回の1名削減につながったと考えています。



違う今じゃない！ 議員のボーナスアップ

令和7年第4回定例会で、市の職員の給与改定に伴い市議会議員のボーナスをアップする条例が出されました。

議員の成りて不足の中に、報酬の安さを指摘する声の一部にあることは理解します。

しかし、飲食店が未だコロナ禍からの状況に十分戻らず、物価高で市民の家計を直撃している現状の中に議員のボーナスを上げるのは、今じゃないと思いますので反対しました！

採決の結果は、反対8、賛成9、棄権1で可決となりました。

菊池市議会では、令和4年の無投票選挙直後の議会においてもコロナ禍で下げたボーナスを元に戻しましたので、実質4年連続4回目のボーナスアップとなります。

二ノ文伸元は、議員のボーナスや報酬を上げる前に、議員が率先して「身を切る改革」をする議員定数削減に取り組むことが先だと思えます。



給水条例の一部改正案に反対

令和5年第3回定例会で水道使用量の検針を毎月から隔月に変更する条例が提案されました。

この条例改正の理由は、隔月にするにより人件費を年間700万円削減することが可能になり、水道事業会計の健全化に寄与するものと、執行部からの説明がありました。

しかし、水道事業は過去3年間の決算書は黒字であり、TSMC関連により今後給水人口が増えることも十分考えられます。実際に毎年新規水道契約者は増えています。執行部の水道事業会計が厳しいとの説明には説得力が感じられません。

二ノ文伸元は、問題点として水道検針員の役割は、単に検針するばかりではなく、地域の見守りも兼ねていると考えます。

何より私が反対する大きな理由は、検針員の方々に対して詳細な説明が行われてなく、理解を得られていなかったことです。

このように、検針員の生活を何とも思わず、人権を無視したようなやり方に、私は憤りを感じてしまう次第です。このような理由から反対討論もしましたが、賛成12、反対7で可決されました。

